

航空部50周年記念事業の概要

昭和61年が近づくとつれて、50周年記念事業への関心が次第に高まりをみせ、小野部長を中心に学生部員代表、三浦OB等が種々協議を重ね数項目の記念事業計画案が提案されました。OB総会ではこれを受けて検討の結果

- (1)新格納庫の建設推進
- (2)新機体の購入
- (3)50年誌の出版
- (4)記念式典・祝賀会の開催

の4計画を記念事業と定め、これを実行に移すために事業準備委員会を設置し、13名の委員を選出しました。委員会はこの計画を実現させるために殆ど毎月委員会を開き、各々の業務分担事項の実

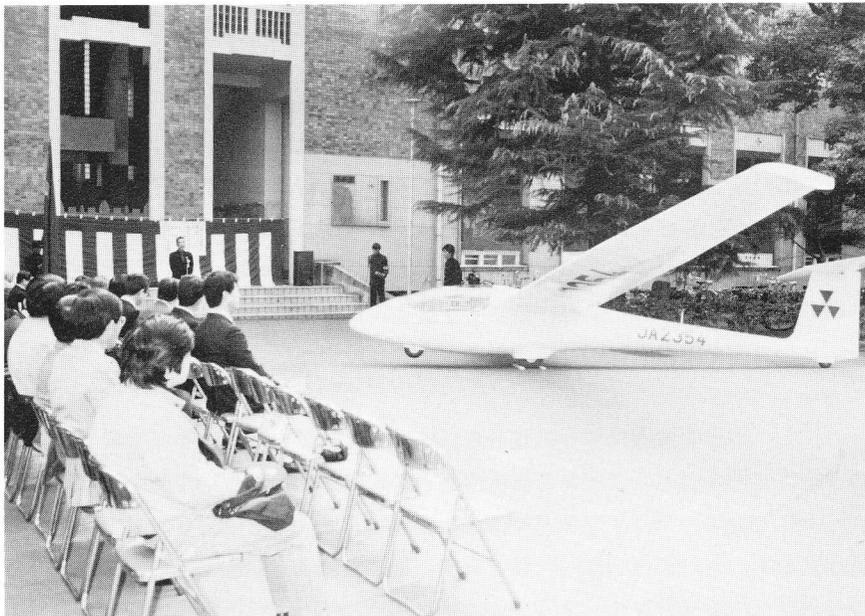
施経過の報告・連絡・協議を続け、記念事業の成功を期して参りました。

しかし、これらの大事業を行なうためには現役学生の努力は勿論、学校当局、OB各位にも大変なご協力をお願いすることになりました。

ここに此等の経過、状況をご報告いたし、今後一層のお力添えを切にお願い申し上げる次第であります。

(1) 名簿製作

記念事業を実行に移す第一段階で問題になりましたのが会員諸兄の消息の把握であります。なにしろ40数年の才月の空白があり、色々の事情で資料が散逸しOBの名簿作製は困難を極め



新機体命名式 ASK-23 AION II

ました。

ボロボロの古い名簿を頼りに人から人へ、或は役所の戸籍係へお百度を踏んでの調査依頼でやっと探し当てた時には残念ながら数ヵ月前に亡くなられたと分かり、思わず涙を落すひと幕も一度ならずありました。これにもこりず、執拗なまでの頑張りで1人又1人と探し出した担当委員の努力には全く頭の下がる思いがいたしました。委員会では、正会員・特別会員あわせて約300名の方々の名簿を整理いたしました。私達が一番知りたいと考えていたのは、河原政勝初代航空部長の消息であります。同志社本部、大阪商大に問合せ、更にかつてお宅のあった神戸灘区役所へも問合せましたが判明せず、更にスイスの日本大使館に問合せた結果ご夫妻ともスイス国で亡くなっていたことが判明しました。ひと足違いで50周年の歡びをお伝えできず本当に残念な思いをいたしました。

改めてご冥福をお祈りいたします。

(2) 新格納庫建設推進

従来香里にあった格納庫も、機材の増加その他の関係で手狭になり、新たな建設が望まれておりましたが、50周年を機に学校当局に強く働きかけることになり、小野部長の数度に亘る当局との交渉の結果、校舎の田辺移転事業の一環として学校当局の手で、従来の2倍以上の広さ(500㎡)で、約5,000万円の経費を投じ建設願えることになり、9月完成を目標に作業に入ることになりました。

(3) 新機体の購入

日本ゼーゲル社から提出された数種類の機体資料をもとに、監督・コーチ陣等関係者が協議し、最終的に西独アレキサンダー・シュライハー

社製 ASK-23 と決定いたしました。

機体の購入につきましては、学校当局に購入資金の一部援助を強く求めておりましたが、格納庫建設経費との関連もあり、援助を求めることが困難となりましたが、小野部長と当局の最終的交渉の結果、学校側から購入資金の貸出しの申出があり、後日 OB の寄付金で返済することで決着いたしました。

同機は耐空検査も終り、60年12月26日に香里格納庫に到着。61年2月23日には大学構内明德館前で命名式を行ない、学長より「アイオンⅡ」と命名されました。愈々学生部員の技量向上に大いに役立ってくれるものと期待されております。

(4) 50年誌の出版

50年誌のサブタイトルは小野部長の発案で「翔友」と決定し、50年に亘る歴史の集大成を形で現わす作業が開始されました。ところが本の編集・出版などには全くの素人集団にとってこの作業は仲々の難事業でありました。しかし、航空部発足当時の大先輩が今尚カクシヤクとして活躍しておられたために、当時の状況が鮮明に浮き刻りに出来たことは何物にも変えがたい喜びでありました。

また、委員会の呼び掛けに心よく応じて原稿・写真・資料をご寄稿下さった OB 各位のご協力振りは、同志社航空部を思う心がヒシヒシと伝わって担当した委員も思わず感激したこともしばしばでありました。

編集に関するマスタープランの立案に始まり OB 諸兄との交渉、印刷会社との交渉など全ての作業を1人で切り廻した担当委員の努力はまさに表彰ものであります。

50年誌の出版作業は今は正念場。原稿の出稿・校正・写真の選別・レイアウト。残された作業はまだまだ山積されていますが、61年秋の祝賀会の席上で見事完成した50年誌をお目に掛けられるものと確信しております。

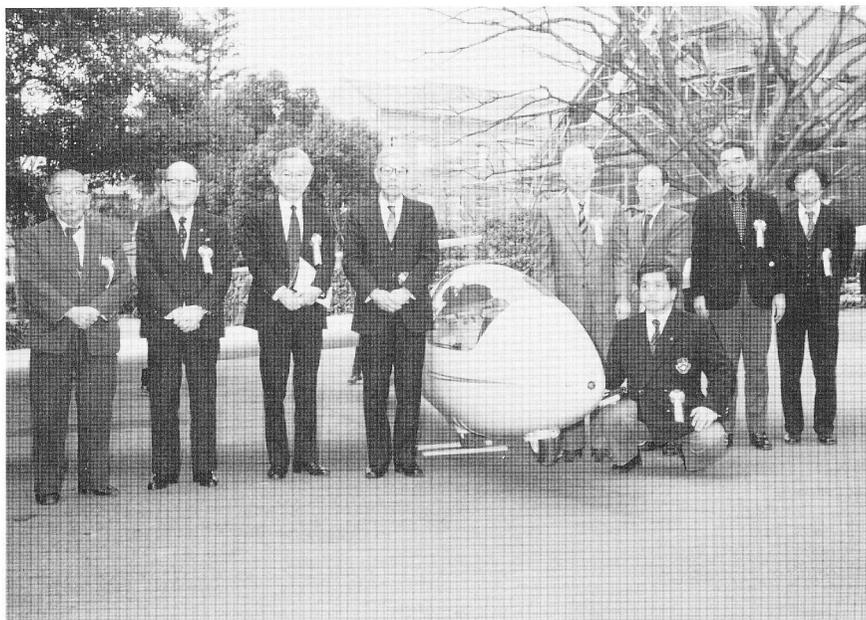
以上、経過・状況のご報告をいたしました。あとは11月に開催する50周年祝賀会に皆様が賑々しくご来場下さって、共に祝盃を上げるばかりであります。

ただ今回、委員諸君が最も苦勞したところは、何と云っても全事業資金調達についてであり、59年2月から20数回に及ぶ会合を重ねながら、文書・

口頭による納入の要請やら依頼を行ない大変な労力と時間を捧げました。この活動に対して大部分のOB諸兄の心からのご協力が委員諸君の唯一の心の支えであり、なぐさめであります。愈々計画も最終段階を迎えようとしております。

あと一息です。本計画が無事完成いたしますよう最後の努力を続ける所存であります。何卒皆様、栄ある同志社大学航空部50周年記念事業達成のためよろしくご協力、お力添えを重ねてお願い致します次第であります。

— 昭和61年3月 記念事業委員一同 —



新機体命名式に出席された来賓の皆様